

風水害

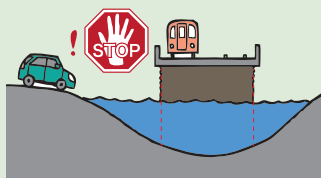
洪水

ひと昔前まで、雨水の大半は田畑やため池などの「自然の貯水池」にたまり、一部は地下にしみ込んでゆっくり川に流れ込んでいました。ところが現在の都市部では田畑などの貯水機能は失われ、道路などの地表部もコンクリートやアスファルトでおおわれているため、雨水の大部分は地下に浸透せずそのまま下水道や川に集中して流れ込み、下水道の処理能力が追い付かず、川も大量の水を抱えきれなくなって市街地にあふれて洪水が起こる危険性が高くなっています。

水害時にはこんな場所に注意しましょう

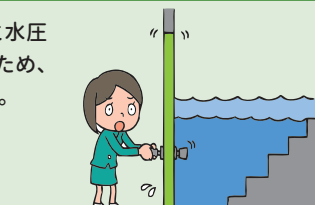
地下道(アンダーパス)

大雨・洪水などにより、地下道(アンダーパス)は真っ先に浸水します。地域の地下道の場所を把握し、もしものときに備えて迂回路を頭に入れておきましょう。



地下空間

地下空間は、浸水が始まると水圧の影響で脱出が困難になるため、早めに地上へ避難しましょう。



まめ知識 家庭でできる浸水対策(初期段階)

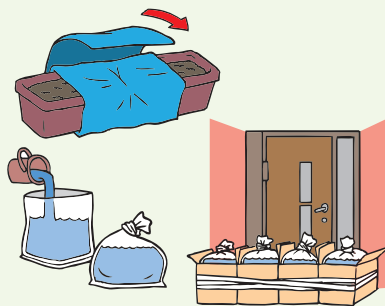
浸水時、水深が10cm以内の初期段階であれば、家庭にあるプランター、レジャーシート、ゴミ袋などを利用した土のうや水のうによる応急措置が有効です。

簡易土のうの作り方

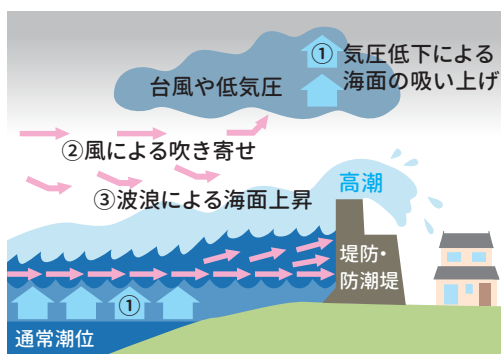
ブルーシートやレジャーシートなどの上に、土の入ったプランターを縦長に並べて置き、シートで巻きつけて補強します。プランターの代わりに水を入れた灯油用ポリ容器なども利用できます。

簡易水のうの作り方

40ℓ程度の家庭用ゴミ袋を二重または三重にして半分程度の水を入れ、きつく縛り、出入口などに隙間なく並べて使用します。段ボールに入れてつなげば強度が増し、積み重ねることもできます。



台風や低気圧で起こる「高潮」



発生メカニズム

「高潮」とは、台風の到来などで風が強く、気圧が低くなる時に潮位が高くなる現象です。長時間にわたって異常に高い潮位が続き、防潮堤を越えたり防潮堤を壊して海水が入り、浸水被害を起こします。

ここに注意！

- 河口や埋め立て地、川沿いは注意。
- 大潮時や満潮時に発生しやすいのが特徴。
- 台風の接近時は特に警戒が必要。

まめ知識 内水ハザードマップを確認しましょう

雨の量が下水道管などの排水能力を超えた時や、河川などの排水先の水位が高くなった時に雨水を排水できなくなり、浸水することを内水氾濫といいます。内水ハザードマップは、このような「内水氾濫」を想定し、最大浸水深、浸水範囲、避難場所、避難にあたっての危険箇所などを記載したものです。

詳しくは、ホームページでご確認いただけます

<https://www.city.toyohashi.lg.jp/42024.htm>



まめ知識 マイ・タイムラインを作ろう

「マイ・タイムライン」とは、洪水のような進行型災害が発生した際に、「いつ」「何をするのか」を整理した個人の防災計画です。一人ひとりがとる防災行動を時系列に整理し、あらかじめ取りまとめることで、急な判断が迫られる災害時に、自分自身のチェックリスト、また判断のサポートツールとして役立てることができます。

詳しくは、愛知県のホームページでご確認いただけます

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kasen/my-timeline-202212.html>

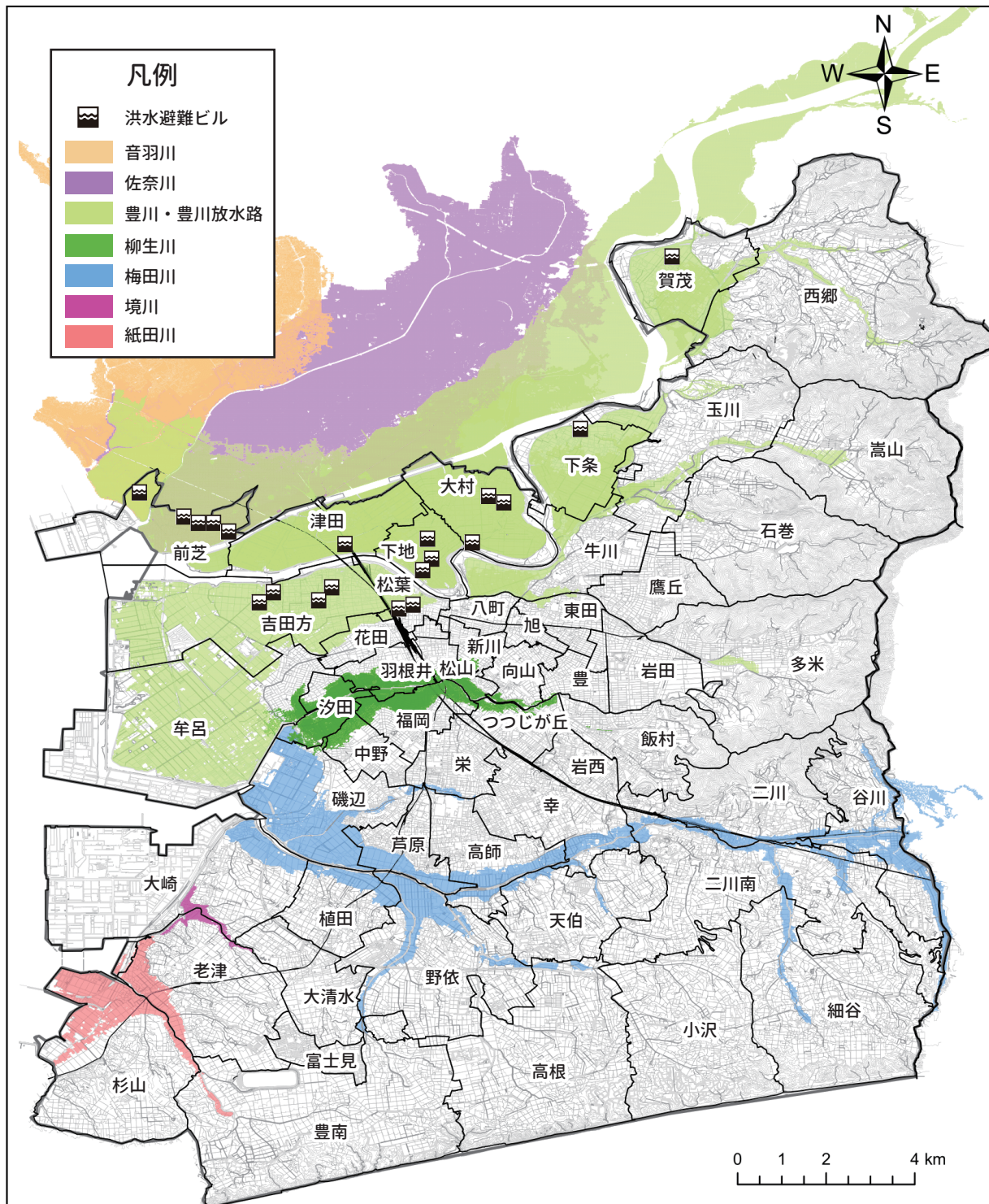




洪水浸水想定区域

この洪水浸水想定区域は、大雨による洪水で堤防が決壊した場合に浸水すると想定される範囲を、河川ごとに色分けして表示したものです。なお、高潮や、地域の排水不良による氾濫は含まれていません。

想定される浸水深については、インターネット(「ちずみる豊橋」(14,33ページ参照)、河川課ホームページ、マップあいち)または、河川課および各窓口センターにて配布している各河川の洪水ハザードマップでご確認ください。



以下の二次元コードからちずみる豊橋にアクセスできます!



洪水浸水想定区域についてのお問い合わせ先

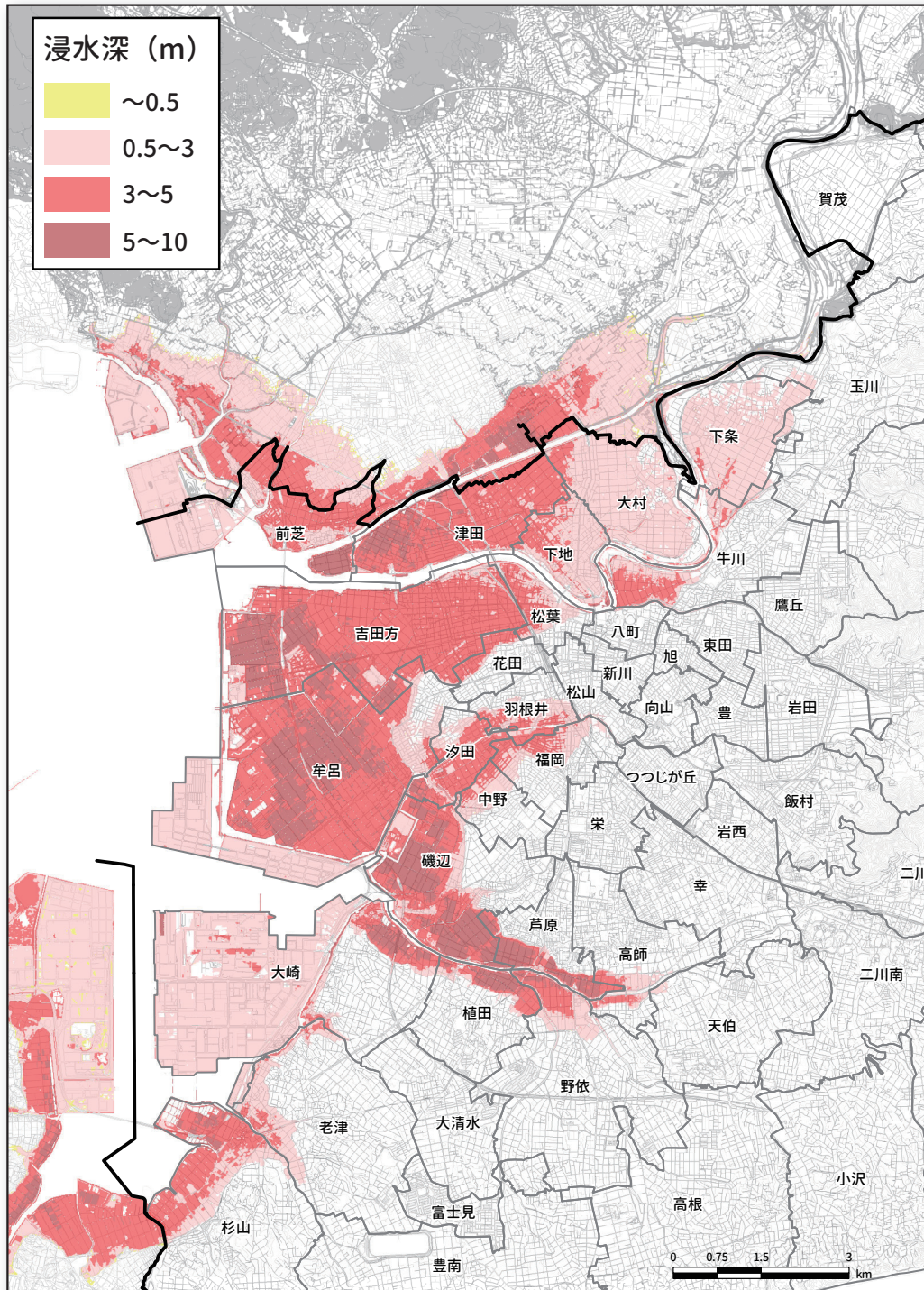
豊橋市役所建設部河川課

電話:0532-51-2535 メール:kasen@city.toyohashi.lg.jp
ホームページ:https://www.city.toyohashi.lg.jp/3396.htm

高潮浸水想定区域

高潮により想定される浸水の深さは、既往最大規模の台風として、中心気圧を室戸台風級(昭和9年、室戸岬上陸時911.6hPa)とし、上陸時の気圧(910hPa)を保持したまま、伊勢湾台風級の移動速度(73Km/h)で、各海岸で潮位偏差が最大となる経路を通過する場合を想定しています。

また、高潮時の河川における洪水の流下を考慮し、海岸線だけでなく河川においても高潮の影響を受けて水位が高くなっている状況での氾濫を想定するとともに、堤防等の全ての防護施設は、外力が設計条件に達した段階で決壊することを基本とするなど、最悪の事態を想定しています。



以下の二次元コードからちずみる豊橋にアクセスできます!



高潮浸水想定区域は
ホームページでご確認いただけます

防災危機管理課 ホームページ <https://www.city.toyohashi.lg.jp/5272.htm>



台風で起こる「風害」

風害とは、風によって引き起こされる災害全般のことを言います。主に台風・低気圧による強風(暴風)、竜巻やダウンバースト、突風などが原因とされています。

風害には雨を伴うことが多く、風害と水害の被害を分けることは難しいため、風水害とすることもあります。

家のまわりの安全チェック

ブロック塀

- ◎ヒビ割れや破損箇所はないか。

屋根

- ◎瓦のヒビ・ズレなどはないか。
- ◎トタンのめくれ・はがれはないか。

ベランダ

- ◎鉢植えや物干し竿など落下・飛散しそうなものは、室内に入れておく。

外壁

- ◎モルタルの壁に亀裂はないか。
- ◎板壁に腐りや浮きはないか。

窓

- ◎ヒビ割れ、窓枠や雨戸のがたつきはないか。
- ◎強風の飛来物に備えて外側から板でふさぐなどの処置をしたか。

雨どい

- ◎雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。
- ◎継ぎ目ははずれや塗装のはがれ、腐りはないか。

排水溝

- ◎側溝のゴミや土砂をとり除き、雨水の排水をよくしておく。
- ◎雨水ますの溝フタを掃除しておく。

その他

- ◎プロパンガスのボンベは鎖でしっかり固定する。
- ◎商店などの看板のぐらつきに注意する。
- ◎ゴミ箱や植木鉢などは室内に入れるか、飛ばないように固定する。
- ◎庭木にはそえ木をしておく。

集中豪雨

前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起きる集中豪雨では、激しい雨が狭い地域に数時間にわたって降り続き、洪水やがけ崩れなどで大きな被害が出ることもあります。

大雨警報を発表中に、その都道府県において数年に一度しか起こらないような短時間の激しい雨を観測・解析した場合には、気象庁は「記録的短時間大雨情報」を発表します。警報や注意報に注意して適切な対応ができるようにしましょう。

雨の強さと降り方

1時間雨量 (mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上 ～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上 ～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく	道路が川のようなになる	ワイパーを速くしても見づらい
30以上 ～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る				高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる (ハイドロプレーニング現象)
50以上 ～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる			水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

(注1) 大雨によって災害が起きるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起きるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起きるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

雨の強さと降り方(気象庁ホームページより)